ごみ減量、次のステージへ！
みなさんの協力が鍵です

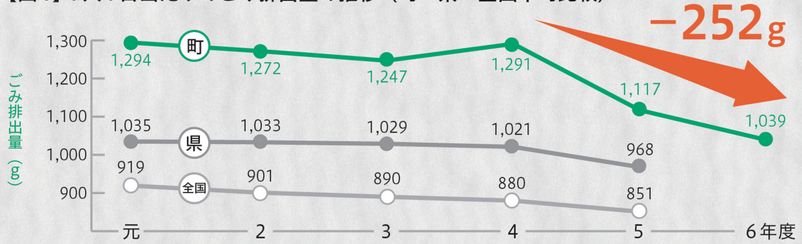
みなさんの力で減り始めている町のごみ排出量

今年3月に環境省が発表した令和5年度の「一人一日当たりのごみ排出量」（図1）において、福島県平均は968グラムで全国ワースト2位という結果でした。その中で、桑折町は1、117グラムと、県平均よりも149g、全国平均よりも266g多い状態です。一方で、町独自調査の速報値によると、令和6年度の町の「一人一日当たりのごみ排出量」は、1、039gと、令和4年度以降減少傾向にあります。

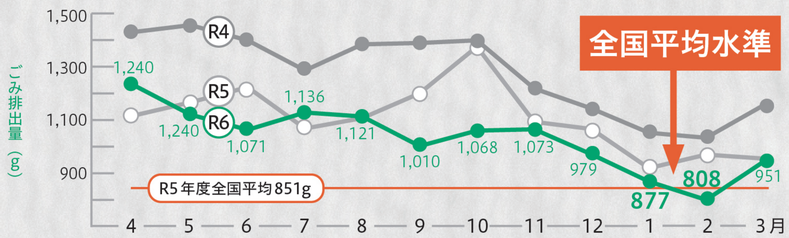
令和4年度から令和6年度の町における「各月一人一日当たりのごみ排出量の推移」（図2）をみてみると、これまで夏から秋にかけて増えていたごみの排出量が、令和6年度は突出することなく推移しています。さらに、12月以降をみると、1、000gを割り込み、2月には808gと、全国平均を下回る排出量にまで減少しました。

これまで町民のみなさんのごみ減量化への取り組みの成果が少しずつ表れています。私たち一人一人の小さな気づきや行動から、ごみ排出量は確実に減らせます。町の補助制度の活用や地域団体の取り組みなどを参考に、引き続きご協力をお願いします。

【図1】1人1日当たりのごみ排出量の推移（町・県・全国平均比較）



【図2】1人1日当たりのごみ排出量の推移（町の各月平均比較）



さらなる減量化に向けごみの組成分析を進めています

町では、令和5年度から、ごみの出し方教室の開催やごみ収集日程の変更など、町民のみなさんのご協力のもと、ごみ減量化に向けた取り組みを実施してきました。今年度は、これまで取り組んできた施策がどの程度浸透しているのかを調査するため、ごみの組成分析調査を実施します。普段みなさんが出すもやせるごみの中身を調べ、生ごみが多いのか、紙類が多いのかなどを分析し、今後のごみ減量化とリサイクル率向上のために役立てます。

広がっています！ごみ減量化に向けた取り組みの輪

資源回収団体報奨金制度

町では、空き瓶や空き缶、古新聞などを収集し、リサイクル会社に引き渡した住民団体（営利団体などは除く）に対して、1kgあたり5円の報奨金を支給しています。

▶取り組み例

ある団体の令和6年10月の資源回収結果

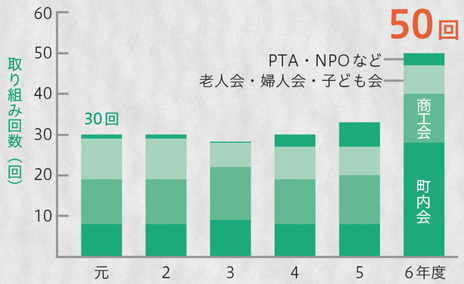
収集品目	回収量
古紙類（古新聞・段ボール・紙製菓子箱など）	670kg
ビン類（酒瓶・ビール瓶など）	14.4kg
繊維類（古着など）	10kg
非鉄金属類（アルミ缶など）	40kg
その他（鉄くず・銅線など）	0kg
総回収量	734.4kg

▼

リサイクル会社買取金額	9,108円
＋	
資源回収団体報奨金 734.4kg×5円	3,672円
＝	
団体の収入（1ヵ月分）	12,780円

この制度は、リサイクル会社から支払われる買取金だけでなく、町の報奨金も支給されます。資源回収はリサイクル推進・ごみ減量化につながるだけでなく、取り組みを行った団体に活動資金が還元されるメリットがあります。

▶町内団体の取り組み回数の推移



町内団体の取り組み回数の推移をみると、令和元年度が30回であったのに対して、令和6年度は50回と大幅に増えています。特に、資源回収に取り組む町内会が増加しており、ごみ減量化に向けた地域の輪が広がっています。

町内会で収集した資源ごみ

亀岡さん

取り組み団体の声　大畑町内会　会長　亀岡 春二さん

私たちは、長年にわたり、古新聞や段ボールなどの紙資源回収や会館に設置した回収ボックスを活用してアルミ缶回収を行っています。資源回収で得た収入は、町内清掃活動で使用するごみ袋の購入費に充てるなど役立てています。地域住民同士が交流できる機会でもあり、今後も活動を継続していきます。

活用ください！各種事業・制度

詳細は、生活環境課☎582-2123まで

▶ごみの出し方教室

町職員を派遣し、ごみ減量化に役立つ方法をアドバイスします。

▶小型家電・古着類の特別回収

イコーゼ、各地区公民館、衛生処理組合内に使用済み小型家電回収ボックスを設置。また、年に2回、使用済み小型家電と古着類の特別回収を役場で実施しています。

▶生ごみ処理容器あっせん販売(行政連絡員連合会事業)

コンポスターなどを廉価であっせん販売。

▶電動式生ごみ処理機購入費補助

購入費の1/2（上限20,000円）を補助。